

若林区防災シンポジウム

第一部 「語り継ぐ震災の記憶」上映

9時20分
～
9時50分

「語り継ぐ震災の記憶」は、若林区中央市民センターにおいて、2013年に若林区沿岸地域にお住まいだった13名の方々から被災当時の様子を聞き取り、まとめた冊子です。

今年度、震災の記憶を未来へ語り継ぐ取り組みの一環として、その冊子の一部を抜粋した朗読劇を宮城教育大学の学生の皆さんの出演により映像化しました。写真で振り返る若林区の東日本大震災から10年の歩みとともに、ご覧頂きます。

第二部 パネルディスカッション

10時
～
12時

「若林区沿岸部にみる コミュニティの復興と次代への展望」

これまで若林区沿岸部において地域コミュニティの復興に携わった6名のパネリストによる、これからの地域コミュニティのあり方について考察を行います。

東北大学災害科学国際研究所

モデレーター

准教授 **佐藤 翔輔** 氏(さとう しょうすけ)

専門は災害情報、災害伝承。2011年京都大学情報学研究科博士後期課程修了、博士(情報学)、日本学術振興会特別研究員(DC2)、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター・助教、東北大学災害科学国際研究所・助教を経て、2017年11月から現職。2015年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(振興部門)、2014年・2019年地域安全学会年間優秀論文賞、2019年度同学会技術賞など多数受賞。仙台市、気仙沼市、宮城県など、県内の震災メモリアルや防災計画のアドバイザー・委員をつとめる。

一般社団法人ReRoots

代表理事 **広瀬 剛史** 氏(ひろせ つよし)

1974年茨城県生まれ。仙台市若林区の津波被災地において大学生とともに農業と農村の再生を目指す。野菜生産から新規就農者の育成、わらアートなどのグリーンツーリズム、スイートポテト専門店仙台いも工房りるぽてのオープンなど、多彩な活動を通じて地域課題の解決に取り組む。

三本塚町内会

会長 **小野 吉信** 氏(おの よしのぶ)

若林区の三本塚町内会長。六郷東部まちづくり部会長など地域の福祉・安全安心・賑わいづくりなどの様々な活動に取り組む。震災後は地域集落コミュニティ再興を目指してイベントや学習会を実施、現在も精力的に活動を行っている。仙台市若林区六郷出身。

ファーム・SURF-SIDE荒浜

代表 **末永 薫** 氏(すえなが かおる)

震災前、荒浜に在住。津波で自宅流出のため避難所・仮設住宅での生活を経て集団移転地にて再建。避難所生活で「自分達が動かないと何も変わらない」と痛感して、【荒浜移転まちづくり協議会】を荒浜住人300世帯で設立して代表を務める。再建後、30年来のサーフィン・釣りを再開して荒浜に通う。荒浜に気軽に通える場所を提供するため、集団移転跡地を活用し共同農園を2021年4月より開設予定。

平松農園

代表 **平松 希望** 氏(ひらまつ のぞみ)

2011年東北大学農学部へ入学。富山県出身。東日本大震災のボランティア活動をきっかけに、農業や地域コミュニティに関心を持つ。農業研修を経て2017年新規独立就農。若林区荒浜、荒井で野菜を生産する。経営理念は、「土づくり、ものづくり、人づくり」。仙台市事業により、震災遺構荒浜小学校の横で集団移転跡地を借り受け、初年度の今年は『荒浜マリーゴールド』として花畑の開放、苗の提供などを企画している。

フリーライター

西大立目 祥子 氏(にしおおたちめ しょうこ)

フリーライター。宮城県内を中心に、地域づくり、住民による冊子づくりなどにかかわる。仙台市内では、若林区七郷地区の住民が変わりゆくふるさとを記録しようと企画した冊子『ふるさと七郷』の制作に協力(1995年発行)。東日本大震災後は仙台市市民文化事業団の事業「RE:プロジェクト」に参画し、約5年間、仙台市沿岸部をめぐる被災した方々取材、エッセイを執筆した。「宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワーク」共同代表。仙台市生まれ。

3.11メモリアル交流館

交流係 **石川 倫代** 氏(いしかわ みちよ)

岩手県一関市生まれ。公益財団法人仙台市市民文化事業団職員として、卸町の演劇系練習施設「せんだい演劇工房10-BOX」などに勤務。平成29年から仙台市の震災メモリアル沿岸部拠点「せんだい3.11メモリアル交流館」(地下鉄東西線荒井駅舎内)に勤務し、企画展示ほか、さまざまな事業等に携わる。地域団体等との展示やイベント(協力事業)などを年間を通して担当している。